令和５年度 フードバンク支援による食品ロス削減事業

フードバンクじょうえつ
食品ロス削減活動報告書

フードバンク じょうえつ
FOODBANK JOETSU

食品ロス削減への取り組み

フードバンクじょうえつでは、農業生産者や食品企業等から寄せられた食品を必要としている人へ配布することで、食品ロス削減に取り組んでいます。農産物直売所での定期的な規格外野菜等の活用や、新聞記事や小中学校でのワークショップを通じた普及活動などの活動を通じて、おかげさまで月を追うごとに食品寄付が増えてきています。今年度実施したさまざまな取り組みについて、その一部をご紹介します。

JAや生産者と連携した規格外野菜等の活用

◆ 農産物直売所あるるん畑では、フードバンクへの協力とフードロス削減の取り組みとして、毎月規格外野菜を募る活動を実施したほか、「あるるん畑あぐりフードパントリー」をフードバンクじょうえつと協力して実施。JAえちご上越青年部、同女性部による米の寄付も行いました。

◆ ほかにも、吉川区では生産者有志「コネクト吉川」によるお米や食品を募る取り組み、地元企業による規格外食品や災害備蓄食品の活用など、食品ロス削減の取り組みが広がっています。

▶地元企業からも災害備蓄食品などの未利用食品の寄付が増加しました。

旬菜交流館あるるん畑では毎月生産者から規格外野菜等の収集を行っています。▶

学校や団体への出前授業や講話

◆ 学校や団体に向け、食品ロスとフードバンク活動をテーマとした出前授業や講話を実施しました。食品ロスの現状を紹介しながら、その削減のためのアクション等、子どもから大人まで多くの市民に知ってもらう機会となりました。

7月1日	上越市立南本町小学校保護者会
7月28日	シニアカレッジ上越
11月9日	上越市立板倉中学校
12月6日	上越市生活環境課（広報じょうえつ）
2月27日	浄土真宗本願寺派国府教区鳥坂組
3月12日	八十二銀行高田支店

▲ 2023年度実施先

食品受け入れ能力の向上をめざして ～低温倉庫と輸送用車両のリース～

◆ 例年、新米収穫時期に出荷できなかった古米の寄付が急増します。また、温かい季節には大量の食品や米を備蓄するための低温倉庫が不可欠でした。これらの問題に対応するべく、

未利用食品や玄米を保管するための低温倉庫（パレット単位）
食品輸送用車両（積載量900kgの商用バン）

のリースを開始しました。

◆ 小型貨物車両のリースによって一度に多くの食品の引き取りが可能となり、まとまった数量の食品寄付への対応が可能になりました。また、低温倉庫があることで記録的な高温となった夏場でも安心して玄米の保存・受け入れをすることができる、年間を通してお米寄付の呼びかけが可能となるなど、食品受け入れ能力を大きく向上させることができました。

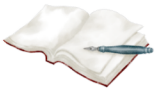
◀ 低温倉庫で夏場でも米の貯蔵が可能に。

普及啓発活動

◆ 地域新聞「上越タイムス」（日刊 1.9万部）の紙面上で、フードバンク活動やフードバンクを活用した食品ロス削減の取り組み事例を掲載。活動への理解をひろめるとともに、さらなる未利用食品のフードバンクへの寄付をよびかけました。

2024年3月11日掲載の記事では、フードバンクじょうえつの食品ロス削減への取り組みについて１ページの特集記事でご紹介しました！ ▶

視察研修・フードバンクしばた訪問



◆ 県内フードバンク活動の先進事例として、新発田市で活動されるフードバンクしばたを視察させていただきました。元企業との連携や今後の事業展開等について副代表の土田雅穂さんからお話を伺い、拠点施設などを見学しました。フードバンク事業のみならず、多岐に渡る事業を精力的に展開されるフードバンクしばたさん。バイタリティあふれる、非常に貴重なお話をお聞きすることができました。

◆ 訪問の様子はP.5~6の訪問レポートをご覧ください。

＼食べる幸せをみんなで分かち合う／

フードドライブ

～食品ロスを減らそう～

「フードドライブってどういう意味？」

「もったいない」を「ありがとう」へ。

フードドライブとは
food（食べ物）＋drive（運動）で
「食べ物を集める運動」という意味。

家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、それらをまとめてフードバンクや福祉団体などに寄付するボランティア活動です。

「フードバンクって何をするの？」

食べる幸せを届けます。

まだ美味しく食べられるのに廃棄されている食べ物がたくさんあります。その一方で、その日の食べ物にも困っている人達がたくさんいます。フードバンクはその両方をつなぎ、個人や企業の方からまだ食べられるのに不要になった食品を無償で受け取り、それらを必要とする人達のもとへ無償でお届けします。

「食品ロスとは？」

本来食べられるのに捨てられてしまう食品。

日本では、年間2,550万トンの食品廃棄物等が出されています。このうち、まだ食べられるのに捨てられる食品「食品ロス」の量は年間612万トン。（平成29年度推計値）
大切な資源の有効活用や環境負荷への配慮から食品ロスを減らすことが必要です。

「寄付した食品はどこに届くの？」

～支援の流れ～

企業・団体
生産者など

個人
ボランティアグループなど

▼

フードバンク

▼

行政・社協・福祉施設・支援団体・個人など

▼

生活困窮世帯・障がい者世帯
高齢者世帯・ひとり親世帯などに配布
その他、子ども食堂などで活用

常温保存可能な食品の寄付をお願いします。

- お米・お餅
- お菓子・飲料
- 調味料・食用油
- 缶詰・瓶詰
- レトルト食品
- 野菜・果物 等
- 乾麺・海苔
- インスタント食品

※未開封の食品　※賞味期限がまだある食品
※企業などで印字ミスや箱崩れ等で販売できない食品

「どんな食品を寄付すればいいの？」

冷蔵・冷凍食品の受入拠点もあります。詳しくは最寄りのフードバンクにお問い合わせください。

お中元・お歳暮
贈答品などの
ご寄付も大歓迎

企業・農家のみなさま

お気軽にお問い合わせください

誰一人取り残さない。

フードバンクの活動はSDGsの目標2「飢餓をゼロに」の達成に大きく貢献する活動です。また廃棄される食品を有効活用するので、目標12「つくる責任 使う責任」との関わりも大きくあります。持続可能な開発のためのパートナーシップで目標の達成に貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

フードバンク じょうえつ
FOODBANK JOETSU
事務局 くびき野NPOサポートセンター

食品ロスを減らす「フードドライブ」などの取組み、寄付されたお米や食品をひとり親世帯向けに配布する「フードパントリー」などを運営。食を通じて子どもたちの育ちや笑顔を応援しています！
〒943-0823 新潟県上越市高土町1-8-7-2F　電話：025-522-6639　URL：http://www.kubikino-npo.jp

フードパントリー

今年度もフードバンクじょうえつの活動を応援・ご支援いただき、ありがとうございました。市民や地元企業のみなさまにご協力いただき、2023年度は上越地域の延べ 1797 世帯へ食品をお届けすることができました。

新潟県内のフードバンク団体が連携して実施している「子どもの未来応援 プロジェクト」の一環として、上越地域では引き続き毎月1回ひとり親世 帯へお米や食品を無料で提供するフードパントリーを開催しています。糸魚川市では市内のこども食堂さんらと連携し、3か月に1回程度開催。妙高市では市内のこども食堂「NPO法人あいあう」さん主催の食支援活動 に協力しています。 例年にひきつづき、2023年度は 17回 のフードパントリーを実施。5027 人の方にご利用いただきました！

▼ 活動実績

開催日	開催地域	配布世帯	受益者数
2023年 4月26日	上越	139	403
5月20日	上越	122	344
5月27日	糸魚川	40	116
6月24日	上越	132	367
7月22日	上越	140	395
8月 1日	糸魚川	43	120
8月26日	上越	146	407
9月16日	上越	139	384
10月21日	上越	141	396
11月18日	上越	143	395
11月26日	糸魚川	41	115
12月16日	糸魚川	41	115
12月23日	上越	107	293
12月27日	上越※	126	345
2024年 1月20日	上越	137	381
1月27日	上越※	110	308
3月30日	糸魚川	50	143
合 計	17回	1797	5027

※･･･妙高市「NPO法人あいあう」との共催

▲ 地元JAの職員がボランティアで規格外野菜の小分け作業を行う様子

▲ お集まりいただいたボランティアのみなさんと

ヒアリング　お話：フードバンクしばた 副代表 土田雅穂さん

フードバンク立ち上げ時の流れをお聞かせください。

立ち上げは8年前ですが、ポスターなどでは思うように利用者は集まりませんでした。母子家庭は大変な思いをしていますが、そのことを外にはなかなか言いません。また、民間の母子支援に対して警戒心があることなどは活動していく上で後から分かってきたことでした。そこで、知り合いを通じて教育委員会の協力を得ることができ、小・中学校を通じて市内の全児童1000名程にフードバンクしばたからのお手紙を配布しました。それを受け一挙に利用者が増え、その内の7割が母子家庭でした。全国でも例がない試みで、山梨などで学校を主体とした取り組みなどはありますが、組織主体で行ったのは画期的なことでした。学校側もはじめは懐疑的な様子でしたが、教育委員会からなら、ということでご協力いただけました。

現在取り組まれている事業について教えてください。

現在フードバンクしばたとして、全部で12の事業を行っています。
フードバンク事業では、毎月1回ないしは2回、直接ご自宅への提供を行います。最初に申請書を提出してもらい、その後は支援回数には制限はありません。お話しを伺い、その日か翌日にはお届け、もしくは取りに来てもらう形で受け取りが可能です。こども食堂は、現在**お弁当配布事業**と形を変えて行っています。こども食堂ではなかなか本当に困ってる人がこないという点があったため、コロナ禍を境にやめました。30人弱のボランティアが中心になってやってくれています。**無料塾しばた寺子屋**では学習支援の他に、イベントや合宿など、子どもたちの体験格差を解消すべくさまざまな場を提供しています。母子家庭にとって一番大変なのは子どもの病気です。**訪問型病児保育“こころ”**では、発病した子どもの訪問看護や、場合によって病院へ連れて行くなどのサービスを無料で行います。利用者の中にはDVから逃げてこられた方もおられます。そういったケースでは行政から一時的な支度金がもらえますが、身の回りの必需品、家電、すべてが無い状態で逃げてこられるため、生活用品を揃えるだけでも一通りの支援では事足りません。**生活用品リサイクルバンク事業**などは、そうしたニーズに対応するためにはじめました。更に、別団体での活動にはなりますが、**奨学金事業**についても準備を進めている最中です。母子家庭の60％が年収200万以下との統計が出ている中、中学や高校の入学時にはそれだけで200万円程かかることも少なくありません。**学用品リサイクル事業**、**制服リサイクルバンク事業**なども、とにかく今困っておられる方を助けたい、そんな思いで行っています。

新発田市での生活困窮世帯の相談窓口はどのようになっていますか。

生活保護と生活支援の窓口は市役所内で行っています。社協や生活支援センターもありますが、10～20件ほどの家庭が登録されていると聞いています。こちらの利用と重複するケースが無いわけではありませんが、そこは明確なルールを定めてはいません。個々のケースへの対応は中心スタッフに任せています。

活動に使う建物についてはどのように管理されていますか。

フードバンクしばたとして借りているこの建物にスタッフの1人が住み、管理を任せています。人的に恵まれているという思いしかないです。お互いに信頼抜群だからこそできることかと思います。他にもビルの一角、制服リサイクルなどのために借りている養護ホームの一角、寺子屋などがありますが、基本的に固定資産税程度の負担を条件に無償でもらい受けたものや、無償で借りているものが多いです。ちょうど、この建物に隣接した民家を譲り受け、産後のお母さんの相談室などの場として活用するため準備中です。チャリティイベントを開催して収益を修繕費用に充てる予定です。
活動開始当初は自宅を拠点にして、配達も自分ですべて行っていましたが、ここを借りて、フードバンクの機能は飛躍的に上がりました。みんなが集まれる、拠点になるところはどうしても必要だなと感じました。

スタッフ、ボランティアのみなさんとの関わりは。

現在55人のボランティアがスタッフとして関わってくださっています。うちはスタッフがが本当に優秀なんです。中心スタッフの2人には給料を支払っていますが、他は完全に無償のボランティアです。毎月の活動資金の上限を決めて、使いみちはすべてスタッフで判断して活用してもらっています。その方式がうちにはあっているな、と感じています。スタッフから出る意見や提案はだいたい受け入れ、できるだけ自由に活動して貰っています。そのことが楽しさにつながっているのかなと思います。スタッフに楽しく活動してもらうことがなにより重要だと考えています。

訪問型病児保育に関わるスタッフも通常のボランティアですか？

訪問も通常のボランティアが行います。事業化するにあたって必要なため、有資格者ももちろんおりますが、業務にあたるスタッフを保育士・看護師などに限るなどの規定を設けるつもりは特にありません。当事業にも、以前病院の看護師長だった方が関わってくださり、そのつながりで以前の同僚、部下だった方などが沢山集まってくださっています。この人に任せたらこの仕事がうまくいく、そういった感覚があり、実際にお任せすると本当に上手くいきます。寺子屋事業の方でも同様のことがありました。そんな人のつながりに支えられていることがたくさんあります。こども食堂自体は中止しましたが、そこに集まった方々のつながりはとても大きく、どんどん活動が広がっています。この上ないありがたい循環だと思っています。

活動を継続していくためのポイントや工夫を教えてください。

各地域の行政も活動団体への助成を行っていますが、行政に支援してもらうメリットがあるかは個々で慎重に考える必要があると思います。例えば、補助金などによっては、市役所の補助を受けていると対象外になるものも多いですから、行政からの補助金を当てにしての立ち上げはやめた方がいいと個人的には思います。活動を通しての実感は、むしろ支援してくれるのは圧倒的に個人だということです。現在年間での収入は1000万を超えますが、個人によるお力が非常に大きいです。個人から100万円単位でご寄付をいただくケースや、毎月5万円ずつをずっと継続してくださる方など、活動のファンになってくださる方との沢山の繋がりがあります。サポートしてくださる方たちとのつながりを継続するため、年4回のお便り（A4表裏/1200枚程発行）と年1回の活動報告には力を入れています。しかし、サポーターとして直接活動を支えてくださる方々以外にも、市内各地に設置しているボックスや、地元スーパーに設置された置き場へ物品をおいていってくれる方々、名乗らずに寄付をくださる方、活動を支えてくださる方は数え切れないほどです。

非常に多岐に渡る事業を、ほぼ無償のボランティアという体制で行われていることが特徴としてあると思います。年々事業規模も大きくなってこられていることと思いますが、今後の持続可能性なども踏まえてどのようにお考えですか。

限られた資金や人材ですべてのニーズに完全に対応することは難しいですが、不満のある人には支援をしないという選択肢はあると思います。公平を重んじる必要がある公共の支援団体ではできませんが、こちらは民間の組織なので。中には否定的な意見があることも承知の上ですが、苦情は気にしません。自分たちの活動によって助かってる人がたくさんいて、実際に生きるか死ぬかの人たちを助けることができている、それがすべてです。
自分がするのは、すべて行動する価値のあることだからと信じています。そして、良い行いは広まっていきます。活動を広めるための必要に駆られてテレビにも出るようになりましたが、テレビの取材を受けるようになって、県内、そして全国にも活動が広まってきた実感があります。地方枠で応じた取材が、反響の大きさを受けて再編集され、全国放送されたりもしました。取材を受け、放送してもらう。放送を見たことで、ファンが増え、寄附が増える。そのように、いいことをやろうとすると天地が応援してくれるという感覚があります。活動によって助かる人がいて、その活動をボランティアが楽しんで行っている。そういった好循環ができていると感じます。このやり方をもっともっと広めていきたいです。

訪問の模様

◀ 温かな雰囲気のイラストで彩られた各種広報物。

◀ フードバンクしばたに隣接する民家。産後の居場所としての利用に向け改装作業中。

2023年度も
様々な形で多くのご支援をいただき、
感謝申し上げます。

製作
2024年3月27日
認定NPO法人くびきのNPOサポートセンター

フードバンク じょうえつ
FOODBANK JOETSU
事務局 くびき野NPOサポートセンター